

通信小海

冷気の防波堤



牧師 水草修治

先月、北海道の札幌・室蘭・函館に行つて来ました。札幌の教会でお話を二回、室蘭では旧友夫妻と十二年ぶりに会い、函館ではたくさんの方の牧師・宣教師の方たちに話をしました。函館の会場は郊外の青少年の家という施設で、周囲は紅葉した美しい森でした。北海道とこのあたりはちょうど同じくらいの気温、気候でした。

そろそろみなさんの家でも防寒対策を始めたところでしょうか。二年前から我が家で始めた安上がりで、たいへん効果のある防寒対策をお知らせしましょう。それは窓際に、三十センチくらいの高さの冷気の防波堤を立てることです。部屋はどこから冷えるか

今月の御言葉
 「あなたがたの思い煩いをいつさい神に委ねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」ペテロ第一

という、圧倒的に窓ガラスからです。たとえ二重窓でもガラスはとも冷たいのです。ガラスに触れている空気は冷やされて重くなり窓に沿って下に降りてきて、窓の下の床を冷やし、さらに部屋全体にひろがって足元から冷やします。

この冷気の流れを防ぐために、窓の内側に幅は窓の幅、高さ三十センチほどの防波堤を立てて窓枠にセロテープや画鋲で留めるのです。防波堤の材質はダンボールでも可ですが、昼の採光を妨げない半透明のプラダン（プラスチック・ダンボール）のほうがいいです。ホームセンターで手に入れてカッターで簡単に切れます。安価です。

二月にこの冷気防波堤を立てて、ガラスと防波堤の間にたまった空気の温度と、防波堤の手前側の床の温度を測ったら、なんとその差が十度近くありました。びっくりです。ぜひお試しください。

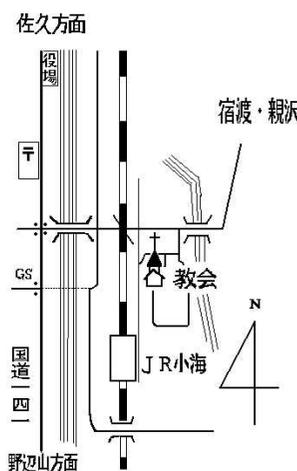
日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

〒振替 〇〇五三〇 〇 六一六八三

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半
 夕礼拝 午後八時から九時

*海尻・川上・南相木・甲斐大泉で毎月一度集会をしています。

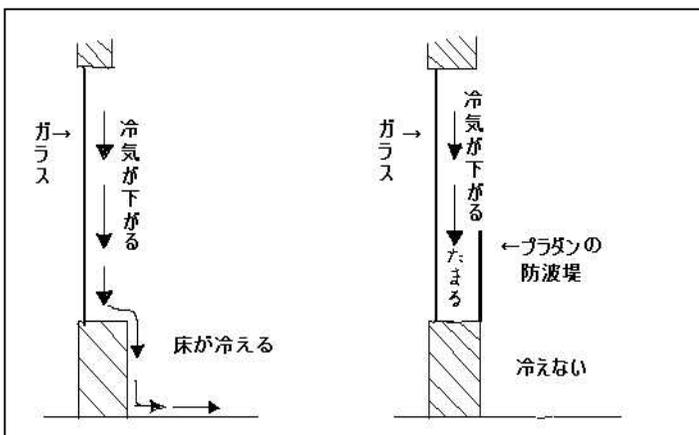
*ノ白た車言免強や他ノ白たこ村言も乗ります。

私はダジャレを口にしては子どもたちから「さむい」と言われていますが、もつと心を寒くするのは、冷たい、心無いことばでしょう。私たちは、相手が発した冷たいことばに過敏に反応してさらにひどい言葉で復讐をしまつて悪循環に陥り、小さなマツチの火が大火事になつてしまつたことがあります。ある夫婦が離婚に立ち至つた経緯をつぶさにたどつていくと、そもそもこの始まりは、夫がふと発した心ないことばと、その言葉に対して過敏に反応した妻のとげのあることばであつたりするものです。国と国の戦争だつても、とは小さなことばと感情の行き違ひだつたりするのです。

暖かいことばを言えるようになりたいものです。でもなかなか自分ではむずかしい。だから、イエス様に、「私のくちびるをきよくしてください。」とお願ひしましょう。

「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。」コロサイ4:6

冷気防波堤の仕組み



海尻で家庭集會

十一月十四日(金)午後七時三十分から
井出博彦さん宅で。 96 2534

南相木で家庭集會

十一月十九日(水)午後二時から

日向の中島悦子さん宅です。どなたもどうぞ。 78 2047

野宿者支援のお米を!

「野宿生活者支援を続ける小海町の『山谷(やま)農場』で、今年も県内各地から米や食料が寄せられ、都内の支援団体に向けて輸送が続いている。十月二十三日は米約750キロと野菜、茅野市社会福祉協議会などから届いた焼きのりや梅干を発送した。」と信濃毎日十月二十五日に載りました。お米は倉庫に現在六百キロになり、冬を越すには厳しいです。「ご支援をよろしく願ひします。」

送付先

▽小海キリスト教会にお持ちくださるか、
南牧村社協へ。

〒384-1302 南牧村大字海ノ口966 1
5 南牧村社会福祉協議会気付 山谷農場

*着払いによる送付はご遠慮ください。荷札に
「木曜午後送付希望」とお書きください。

山谷農場事務局 (藤田 寛) 小海町芦谷ヒルサ

イドコーポ一 一ノ室毎週金曜・土曜はおりません。

電話 090・1436・6334

ﾌﾌﾌﾌ042・7866・2008

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパ 三振替 一四 四五三七九六

インマヌエル



アブラムが九十九歳のとき、主は久しぶりにアブラムに啓示をお与えになった。神の啓示は曖昧な幻ではなく、明確なことばであった。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびただしくふやそう。」

ひれ伏したアブラムにさらに主はことばを告げられた。

「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。……（中略）わたしはわたしの契約をわたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの

子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。（後略）」

神はアブラハムが多くの国民の父となると言われた。この約束はアブラハムの子孫からイスラエル民族が出て、イスラエル民族のユダ部族ダビデの家系に、御子イエスが誕生することによってである。イエス・キリストの名はその後二千年間、世界のあらゆる民族・国語の人々に宣べ伝えられ、今、世界中のクリスチャンたちはアブラハムを「信仰の父」と呼んでいる。

紀元前二千年にこの約束を聞いたアブラハムは、世界の片隅のパレスチナの荒野に住む遊牧民の年老いた一族長にすぎなかった。しかし、約束をくださったお方は、世界の歴史を導かれる真の神であったから、その約束は実現した。聖書の神はよくできた神話やフィクションではない。歴史を支配する生きている神である。

* * *

ところで、アブラハムへの約束の中心は、「わたしがあなたの神となり、あなたとあなたの子孫はわたしの民となる」です。そして

実は、これこそ聖書全体の主題なのです。

生きている本物の神が私たちの神となったださるといふ約束は、イエス・キリストが十分に実現させていただきました。最初のクリスマス、神が人となって、私たちの人間世界に来てくださいました。神は私たちの人生の同伴者となってくださったのです。イエスさまは貧しさも痛みも空腹も経験されました。ですから、イエスの別名はインマヌエルと言います。この名は「神は私たちとともにいます」という意味です。

私たちは時に、荒野をひとり旅しているような気持ちになる時があります。信頼していた友に去られた時。手塩にかけてきた子どもが巣立つていった時。愛する者に先立たれた時。誰にも自分の痛みをわかってもらえない時。しかし、どんなときでもどんな状況でも、あなたは決して一人ぼっちではありません。イエス様は、「わたしはあなたの神となろう。わたしとともに生きようではないか。」と、今、あなたに呼びかけていらつしやいます。「イエス様、わたしをあなたの民としてください。」と呼びかけるのです。不思議に、あなたの心に人智を超えた平安が訪れます。

召天者記念礼拝



十一月の最初の日曜日、召天者記念礼拝という特別なときをもちました。筆者がこの地で伝道を始めから今年で十五年目ですが、その間、天に召された懐かしい方たちが六人います。

キリスト信徒としてこの世を去ると、キリスト教式で葬儀をし、本人と遺族の要望によって骨は教会の共同墓地に納める場合と、家族の墓地に納める場合があります。一族や家族の墓に納められることを希望なさったばあい、その墓に骨を納めて、墓誌には、十字架・名前・年月日を刻み、最後に「召天」と彫って故人の信仰と行き先を記念します。ある人は、キリストの恩寵によって救われて以来、実によく家族親族友人の幸せのために日々愛をもって祈る人となられたことを記念して贈り名として「恩寵愛禱大士」と彫ってもらったこともあります。

召天者記念礼拝というのは、召天者を礼拝するときではありません。召天した人々を偲びつつ、彼らにいのちをくださり、天国の永遠の祝福に入れてくださった神に礼拝をささげるのです。また、参列者は自分自身もやがて神の前に出ることを自覚するのです。

「生まれては死ぬるなりけり おしなべて 釈迦も孔子も猫も杓子も」と歌った人がいますが、まさにそうです。なんだかばんやり私たちは自分だけはいつまでも生きていくような錯覚に陥っていることが多いのですが、生まれた以上、死ぬのです、私たちは。

聖書に「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。」(伝道者七章二節)という少し皮肉なことばがあります。結婚式でみんなが華やいだ雰囲気のあるところにいくのは楽しいものですがけれども、祝宴で飲めや歌えの騒ぎをしているとき、私たちは自分に目隠しをして人生の真相を見えなくしてしまっているという

ことでしょうか。けれども、喪中の家を訪れ、なきがらを見、嘆き悲しむ遺族と話したりするとき、私たちは自分にもやがては死が訪れるという事実をつきつけられて、さてこの人生いかに生きるべきなのかと考えさせられて賢明になることができるという意味でしょうか。

召天者を偲ぶとき、私たちはなにを悟らされるでしょうか。

ひとつは、自分もまた聖なる審判者である神の前に出る日が近いことに気づきます。聖なる法廷を意識するとき、恐ろしい気持ちになります。神の前では恥ずかしいことがあるからです。けれども、この私の罪を担うためにこそ、主イエスは身代わりとなって十字架で死んでよみがえってくださったと、感謝を新たにさせられます。

また、召天者を偲ぶとき、この世における自分の生き方を点検することになります。妻への態度、親への態度、子どもへの態度、友への態度。そして、この家族をくださった神に対する生き方。イエス様によれば、私たちに対する神のご命令は、神様を愛し、隣人を自分自身を愛するように愛するということです。このご命令の前に自らを振り返り襟を正します。